

令和元年度

奈良県立高円高等学校 学校評価総括表

教育目標	普通科と芸術系学科からなる学校としての特性を生かし、感性を育み、心豊かな生徒の育成を目指す。		総合評価
運営方針	安全で安心な学習環境のもと、基本的な生活習慣の確立と学力の定着・向上を図り、生徒一人一人の個性を尊重し伸ばす指導をする。		
	生徒の心身の健康に留意し、きめ細やかな指導のもと、生徒の自主的・主体的活動を推進し、自立心や社会性を育成する指導をする。		
平成30年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	B
<p>「わかる」授業・「主体的に取り組む」授業を進めるために、まずは基礎学力の向上とともに、自主的な学習姿勢の確立を目指したところ、「下学上達」の取組は学力の向上と定着に一定の成果があった。</p> <p>授業をより能動的なものにするため、観点別学習状況評価の実施に向けた職員の更なる研修が必要である。</p> <p>担任と進路指導部が連携し、生徒一人一人の進路目標を理解して丁寧な指導を行った結果、生徒の学びたい分野や将来の職業を見据えた進路選択ができていた。</p> <p>学校の取組の保護者への情報提供や、広報活動の充実が課題である。</p>	学力の定着・向上と主体的な進路実現	「わかる」授業・「主体的に取り組む」授業を進め、学力の定着・向上を図り、思考力・判断力・表現力の育成に努める。キャリア教育を充実させ、生徒自らが主体的に進路選択できる力をつける。	
	基本的生活習慣の確立と社会性の育成	生徒一人一人の理解に努め、はじめある生活態度と他者を思いやる心を育成する。生徒の自主的・自発的な活動を推進し、社会の一員としての自覚を深めさせる。	
	心身の健康と体力の保持増進	教科指導や特別活動、保健・食育指導等を通して、体力の向上を図り、健康への意識を高める。教育活動全体を通して安定した豊かな心、強い心を育てる。	
	芸術教育の推進と交流活動の展開及び発信	芸術教育の充実発展を図り、魅力と特色ある学校づくりを行う。交流活動を通して地域や保護者、関係機関との連携を深め、積極的な情報発信をする。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
学習活動	生徒の基礎学力向上とともに、自主的な学習姿勢の向上を図る。新学習指導要領に示される学習の指導法及び評価について調査研究を進める。	・「下学上達」に積極的に取り組ませる。現状や効果を各学年から聞き取り、各学年の生徒実態に即した、より充実した内容に改善していく。学年からの意見を整理し、内容を改善できればB、それに基づいた成果が上がればA。	B	B	今年度、1学年は漢字、2学年は英単語、3学年は英文法の内容で実施しており、到達度の確認や基礎学力に向けた取り組みをしていた。朝のSHR後に落ち着いた状態で行われた。各学年からの意見をいただくなかで、内容の吟味が必要ではないかという意見が上がっている。	学年主任と連携をとりながら、学年進行による内容の再構築を図り、より基礎学力の向上を図る。	<p>アクティブラーニングは、自分の考えをどのようにするかにも大きくつながる。取り入れられた授業は有効に働くと考えられる。</p> <p>これからも取り組んで欲しい。</p> <p>音楽科や美術科のある学校で普通科とともに学び、学校生活を送ることは非常に良い。</p> <p>自校で作成された学校紹介ビデオはとても良いので、中学校でもみせてあげてほしい。</p> <p>「知」、「徳」、「体」について、十分考えて取り組まれており、バランスが良くとれている。</p>
		・「主体的、対話的で深い学び」について、調査・研究を各学科・教科とともに進めるとともに、アクティブ・ラーニングを意識しながら授業を行う。予習復習の習慣付けを重点的に行い、授業をより能動的なものにする。各教科で導入が進めばB。その結果、有効な改善ができればA。	B		・各教科において公開授業・研究授業期間を中心に「主体的、対話的で深い学び」を意識し、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業展開がなされていた。	6月・11月の公開授業・研究授業期間に観点別評価に関する情報交換会などの研修を来年度実施する。	
		・観点別学習状況評価を各学科・教科とともに進める。来年度に向けて、職員間に一定の意思統一ができればB。基準ができ、何らかの形での試行ができればA。	B		・観点別評価においてもシラバス作成時に各学科・教科で考案し、日々の授業・考査などで進められてきた。		
	各学科、類型の特性や生徒の進路に適した教育課程の検討、編成をする。	・学習指導要領に基づいて、各学科、類型の特性や生徒の進路に適した教育課程の検討を継続的に行う。その進捗状況により評価を行う。	A		令和3年度の高円芸術高校におけるビジョン委員会・教育課程委員会において、各学科・類型の特性に応じた教育課程を考案することができた。	次年度は、シラバス作成を引き続き行う。	
	・各分掌・学年・学科との連携や調整を密に図り、学校行事の目的を果たせるよう円滑な運営を目指す。	A	A	教職員が情報を共有し、円滑に運営することができた。	分掌・学科・学年の連携を密に行っていく。		

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
	学校行事等の円滑化と、儀式での集中力の向上を図る。	・式典の意義を考えさせるとともに、けじめをつけさせる指導を通して集中力を長時間維持させる。	A	A	学年主任・各担任の指導もあり、さらに生徒の自律的な行動が見られ集合整列が大変スムーズであった。	高円分教室と合同で行った式典のあり方を両校で評価し合い来年度へつなげる。	
生活指導	基本的な生活習慣を確立する。	・日常生活のなかで自然にきちんと挨拶ができるよう習慣付けをする。また正しい言葉遣いの指導に積極的に取り組む。朝の挨拶運動や、全校集会などで挨拶することの大切さについて伝えていく。	B	B	・日常生活での挨拶などの習慣づけについては全校集会や各学級での取り組みなどもあって一定の成果があがっている。ただ持続して取り組み続ける必要があり、啓発活動も日々取り組む必要があるため、今後も努力していく。	学校全体で挨拶の大切さについて考え、学級での様々な場面、そして全校集会で繰り返し伝えていく。	
		・特別な事情のない遅刻をなくすことを目指し、全生徒が8:30には昇降口を通過できることを目標とする。遅刻を繰り返さない取り組みをする。	B		・遅刻をなくす取り組みは各学年で毎日取り組んでいただいていることではあるが、なかなか成果として上がっていない。常習化している生徒も一定量存在し繰り返し注意しているが目に見える形での成果が上がりにくい側面がある。	遅刻の問題点について繰り返し説いていくとともに、常習化している生徒個々への対応。	
		・制服の着こなしを意識し、きちんとした身だしなみを身につけられるようにする。	A		・着こなしについては全体的に大きな問題はなかった。ただスカートの丈など日々注意することは少なくない。また色つきリップなども散見され気を抜くことはできない。	学級、学科などの対応で意識の違いがあるところを統一して取り組む必要がある。	
日常生活におけるルールを徹底させ、マナー・モラル向上に努める。	・登校時間における公共交通機関でのマナー、モラルの周知徹底を図る。また、交通ルールに対する考えをしっかりともち、事故に遭わない遭わせない安全意識を徹底させる。 ・定期的に登下校の見回りを行うとともに、講演会などを通じて安全意識をより一層高める。	A	・今年度も、特に前半バスでの乗車、登下校での自転車の並走など外部からの指摘なども含めて指摘されることがあった。下校時の見回りなどを徹底するなどして対応し、一定の成果を得たと考えている。交通安全についても1学年を中心に登下校の危険区域についての認識を早い時点で把握する意識をもつことを大切だと考え、年度初めの交通安全意識の周知徹底を図りたい。	定期的に確認する機会をこれからもつくる必要がある。登下校時に確認する場面をつくることで大きく改善できる。また自転車の運転のマナーについては細かく指摘する必要がある。	駅構内でのマナーは非常に良く、継続できるよう指導して欲しい。 バス停でも、きちんと整列で来ている。 道路交通法改定に伴い、自転車に関わる交通ルールや正しい乗り方を指導して欲しい。		
進路指導	進路実現に向けた学習・面接指導の充実	・大学入試や就職採用試験に対応できる学力の伸長を目指し、生徒一人一人の進路希望に応じた学習対策の充実を進めるとともに、生徒自身が主体的に学習に取り組む姿勢を育てる。 ・生徒との面談や指導を丁寧に行うことで生徒の不安感を和らげ、生徒・担任・進路指導部が連携を密にとり最終進路の決定を図っていく。 ・模試や各種テスト・検定等の受験を促し、学力の向上、学習意欲の醸成を図る。	A	A	自己評価をAとしたが、これは進路指導部の力ではなく、クラス担当の先生方の取組の評価として理解していただきたい。とりわけ第3学年においては、入試環境の変化の激しいなか、ていねいな取組や指導によって、進路実現に多大な努力をしていただいたものと思う。課題としては、一般入試やセンター試験の受験者が漸減していること。また平素の学業成績が良い生徒でも、競争入試に耐える教科学力が不足していること。高い意欲の醸成と教科学力の構築を図る必要がある。	今年度は2学期末の段階で、最終進路決定者が8割を超えた。早期の決定が必ずしも悪いことではないが、とくに上位層には自信をもって国公立大や一般入試に挑戦する気持ちを促していきたい。	音楽科や美術科の実技指導は大変充実している。また、東京芸術大学をはじめ、公立の芸術大学への進学実績をもっとアピールして欲しい。
	進路決定に向けたキャリア教育の充実	・生徒が自身のキャリアデザインを描くためのガイダンスや講演会等を開催し、内容的な充実も図っていく。 ・体験学習やインターンシップ等への参加を促し、望ましい勤労観や職業観の育成を図る。	B		事業計画のガイダンス等は予定どおり行い、一定の成果はあったと思う。ただ、そこでの動機付けが継続し、日々の学習意欲の高まりまで結びつかない点では不十分なところがあるのではないと思う。また、ガイダンスの企画内容も、例年の踏襲で、新しい工夫をもちこむべきかもしれない。	日々の学習や社会の動きにおいて、興味関心のあるものを深く掘り下げ、自己の進路に結びつける意識を育てたい。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
	進路情報の収集と情報提供の強化	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定に資する冊子・資料、イベント・オープンキャンパス情報等について適時提供を図る。 大学入試の大きな変化に備え、受験者のとりわけ多い大学を中心に、新テストに対する取組に関する情報収集に努める。 保護者に向けても進路講演会や大学・学校等の見学会を催し、進路への理解を深めていただく。 大学入試英語外部試験について、英語科と連携し、対応計画を構築する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導室を中心に、各種の進路情報を提供してきた。ただ日ごろ北館2階を訪れることがない1、2年生の利用がとて少ないのが残念だ。クラス・HRでもっと利用を促してほしい。 入試の改革の混乱に振り回された一年であったが、英語科や第2学年には多大な協力をいただいた。今後もさまざまな動きに連携していきたい。 	来年度は、推薦入試の形式変更、共通テストの新設など、入試の形が変わる年である。積極的に情報を集め、受験指導をおこなっていききたい。	能力がありながら、進学費用の面から芸術系学科への進学を諦めるケースもあると思われる。進路指導の中で、進学に必要な費用なども具体的に指導して欲しい。
特別活動	生徒の自主的、主体的な活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会主催の行事等で、生徒会が先導し高等養護学校高円分教室生徒とともに、生徒が積極的に関わられる活動を目指し企画立案する。 生徒会が中心となって美化活動、ボランティア活動、挨拶運動などへの参加を奨励・推進する。 他校・地域などとも積極的に交流し、生徒会の活躍の場を広げる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から始業式や終業式に、高等養護の生徒も加わり合同で行われ、表彰伝達では高円高校の生徒と高等養護の生徒双方の様々な活動の一面を知る良い機会となった。 スマホホリデーの呼びかけや事後アンケート集計、災害義援金の募金活動、校外美化活動への協力参加など、積極的に発信し取り組めた。 	生徒の自主的、主体的な活動を推進するための指導体制の確立、強化。	
	委員会活動や部活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 芸術学科の様々な活動や委員会活動を生徒会が中心となって全校生徒に配信する。 学年クラスを越えたグループでのフットサル大会や文化祭への参加を強く呼びかける。 各部の活動の更なる活性化を図るため、生徒会としての範囲内で施設や設備の充実を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭では各クラス・クラブや有志等多くの団体が工夫を凝らし参加し盛り上げてくれた。生徒会メンバーも体育館の進行役を務め、また実行委員メンバーと高等養護の生徒がイベントの司会を協力して務めた。 今年度のフットサル大会は天候に恵まれず中止となった。 	委員会活動や部活動の活性化を図るため、担当教員やクラブ顧問の先生方の連携・協力が重要。	
	図書館利用・運営の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の図書館利用や読書活動に積極的に働きかける。またクラス図書委員の活動の幅を広くし、新たな角度からの図書館利用を図る。 課題研究や資料参照など、教科での図書館利用を一層活性化させるために各教科との連携を深める。 次年度の新入生への図書館オリエンテーションの実施方法や企画について検討する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 図書館通信の継続的な発行に加えて、図書に関する情報交換のノートを設置し、「本の福袋」「読書通帳」など図書館の利用を促す活動を増やした。 図書委員、新着任の先生方に「気になる本」を紹介していただいた。 教員に向けた「レファレンスサービス」を開始した。 	図書委員の業務を増やしていく。(蔵書点検など)	
環境 安全教育	校内、校外美化の徹底と防災、防火に関する意識啓発を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 校内及び校外美化活動を各学期に1回実施する。 避難・消火訓練・救助袋降下訓練、シェイクアウト訓練を通して防火、防災の意識向上を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員を中心に高等養護生と共に美化活動を実践した。 地震発生による火災を想定し、シェイクアウト訓練を合わせ、また紀伊半島水害の学習も含め防災意識の高揚に努めた。 避難訓練では、新調された避難シューターを使つての研修も行った。 	美化活動の充実 防火訓練のあり方の検討及び消火訓練の実施	
健康教育	健康状態を把握し自己管理できる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会の活動を通して健康意識の向上を図る。 保健だよりを月1回発行し、健康意識を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員を中心に文化祭等で健康意識の啓発活動を行った。 保健だよりを月1回発行し健康意識の向上、食育、インフルエンザ・ノロウイルスの感染予防等を行った。生徒の興味を引く内容を工夫していきたい。 職員研修としてエピペンの使い方を共通認識した。 	熱中症、食物アレルギー対応、感染症対応等学校医の助言を元に具体的対応を検討する。環境検査を受け、換気の積極的実践を行う。	生徒の行事に取り組む姿勢、楽しそうな様子が、体育大会や長距離走のドローン映像からも見て取れた。

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
	新体力テスト、体育大会、長距離走大会の安全な運営を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会の活動を通して各大会の円滑な運営を図る。特に、体育大会については、1年生のクラスによる人員の差、男女比の差を考慮に入れて、「満足した」「おおむね満足した」が80%以上になるよう工夫・努力をする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員を中心に準備、片付け等を円滑に行った。 ・体育大会では最後に雨が降ったが最後まで実施できた。1年6組の生徒数への対応は以後検討せねばならない。 ・新体力テスト50m走のゴールが芝生となる設定をしたが、昨年度よりデータは、良い傾向にあった。 	<p>体育大会の運営について、生徒数の差を配慮できる手立てを考えねばならない。50m走の走路は、来年度も同じ方向で進めたい。</p>	
人権教育	人権に関する知的理解と人権意識、感覚の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会、人権相談部会を定期的に開催し、共通理解のもとに活動を進める。 ・人権HR・講演会等を通じて人権問題に対する意識の向上を図る。 ・全学年に人権作文を夏休みの課題とする。 ・共生社会の形成に向けてインクルーシブ教育を推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会を年間2回開催(第2回は3月開催の予定)。 ・人権HRについては、各先生方のご尽力により、指導案作成から実施及び報告まで行うことができた。デートDV講演会については、今年度は保護者にも案内し、参加を得ることができた。横井支部での現地研修会では、職員5名が参加。現地で生の声を聞くことに意味があると感じる。今後も続けたい。 	<p>人権教育推進委員会が本校の人権教育の核として機能するよう、計画・段取りを充実させる。</p>	<p>「知」、「徳」、「体」について、十分考えて取り組まれており、バランスが良くとれている。人権教育においても心の教育がきちんとされ、学力、体力が培われている。これからもバランスのとれた教育を目指して欲しい。</p>
	生徒の交流を充実させ、共に生き、共に育つ仲間集団づくりの取組を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・バルツァ・ゴードル(重症心身障害児学園・病院)との交流会を実施する。 ・奈良養護学校との交流会を年2回実施する。 ・高等養護学校分教室との交流を学校行事を通じて行う。 ・音楽科、コーラス部、その他の団体とも連携し、交流会を実施する。 	B	<p>バルツァ・ゴードルとの交流会は実施できなかったが、奈良養護学校との交流会は予定どおり7月と12月に実施できた。文化祭では高等養護学校と合同でハンドベル演奏を行った。交流委員の生徒は、いずれにおいても意欲的に取り組むことができ、得るものが大きかった。</p>	<p>身近な存在である高等養護学校との交流をさらに広げられるようにする。</p>	
教育相談・特別支援教育	教育相談及び特別支援教育を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様々な課題に対して各方面で活発に相談活動が行われるよう取り組む。その際、スクールカウンセラーと連携し、助言を得ながら、主体的に活動する。 ・教育相談・特別支援教育に対する知識理解を深めるための職員研修会を開催する。 ・特別支援教育推進委員会を定期的に開催するなかで、さらに生徒理解を深める。 ・ピアサポーターとの連携を深め、生徒理解に活用するためにピアサポーターとの連絡会議を学期に1回実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちの個々の課題に対して、教科担当者会等の打合せの機会を数多くもつことができた。その際に、スクールカウンセラー等とも連携して対応した。 ・教育相談の職員研修会を、スクールカウンセラーを講師として実施。また、冬期休業中に特別支援教育の自主研修会を実施し、多くの先生方にご参加いただいた。 ・特別支援教育推進委員会は、学期に1回ずつ、年間3回開催した。管理職、スクールカウンセラーにも毎回参加いただき、本校の生徒・先生方に必要なサポートとは何かを共に探っていたい。形として定着しつつあるが、形骸化することなく、生徒・先生方を具体的にサポートできるものになりたい。 ・奈良教育大学との連携を継続。ピアサポーターとの連絡会議は、年間1回開催。今年度は、特に後半に多くの生徒が利用し、進路の相談等をした。 	<p>日常的に個々のケースに対して具体的な相談ができるようこころがける。そのためにも、平素から、職員室が生徒たちの様子が話題となるような場とする。</p>	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
広報活動	広報活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> Webページ、新聞、各種メディア等を利用した広報活動を一層充実させる。 学校見学会を充実させる。 中学校等への積極的な情報提供を図り、本校のよさを広く伝えていく。 Webページの充実と活用について職員に啓発する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各種依頼のあった情報誌等には、最新の情報を掲載することができた。 各学科や部活動等で更新を行い、Webページが充実した。 学校見学会や出前授業、オープンスクール等では、リーフレットを活用し、参加者に本校の特色を伝えることができた。 依頼のあった外部の説明会に全て参加することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> リーフレットの発行時期を早められるように取り組む。 外部の説明会(塾主催)については、精選して参加する 	<p>「学校長の部屋」など、校長の熱いメッセージは心に響く。これからもWebページで発信して欲しい。</p> <p>ドローン映像を活用した学校行事の紹介など、新しい視点の広報も効果的で良かった。</p>	
育友会・同窓会活動	保護者との意思疎通の向上を図るとともに同窓会活動を円滑化する。	<ul style="list-style-type: none"> 育友会学級役員との連携を図る。 同窓会総会、役員会等のスムーズな運営に助力する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 育友会については、事務室と連携をとっていたが、活動に助力できた。 同窓会役員との連携を密にして、総会開催等に助力できた。 		育友会の広報委員をはじめ、役員の方々には活発に活動していただいた。	
第1学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ、挨拶、言葉遣いの指導を徹底する。 遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める(生徒個人ごとに、各学期5回以内、年間15回以内を目標とする)。 ルールや期限を厳に指導し、特別な指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の3%以内を目指す。 携帯電話・スマートフォンやSNSの使い方のマナーや危険性についての指導を徹底する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみや挨拶は概ね良好な状態。生活の乱れによる遅刻過多(10回以上)で指導(奉仕活動)した生徒は6名であったが、悩みなどからくる不登校傾向や遅刻過多の生徒もあり、画一的な指導できない状況がある。 特別な指導を要する生徒数は3%を下回っていたが、年度当初から危惧していたとおりスマホ、SNSの使用における指導は後を絶たなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみについては、大きく乱れるものはないが制服の着こなしセミナーなどを1年時に企画することも有効と思われる。 欠席・遅刻指導について個々に応じた指導と不登校傾向の生徒への対応の見直しが必要 スマホ、SNSの使用についての専門家からの講習等が必要 	
	家庭学習の習慣付けを行い、基礎学力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 「下学上達」に積極的に取り組ませ、学習習慣の定着とともに基礎学力の向上を図る。 教科担当と連携を図りながら理解不足の状況を把握し、補習の実施など学年からも呼びかける。 提出課題を把握して全員提出を呼びかけ、期日までに提出を徹底させる。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣と基礎学力の定着を目指して「下学上達」では漢字学習に取り組んだ。後半ややマンネリ感が起きてきていたように思われる。 各教科担当者による成績不振者に対する補習なども実施された。担任を中心に成績不振者に対して家庭との連絡を取りながら学習に取り組む環境を整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を持っている生徒と持っていない生徒の学力差が大きい。「下学上達」で中学校までの学習の復習への取り組みを入れてもよいのではないかと思う。 	
	社会性の向上と集団行動に対する意識の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事やHR活動に積極的に参加させることで、なかまづくりや他の生徒を尊重する態度・意識をもたせる。 課外活動への積極的な参加を促し、チームワークや社会性の獲得を目指す。 行事などを通して他者と協力をしながら、迅速な集団行動を意識させ身に付けさせる。 	A		<ul style="list-style-type: none"> 各学校行事に積極的に取り組む姿が見られ、仲間作りにも大いに役立った。 与えられた役割に対しては、集団で協力しながら迅速に活動することができた。 人間関係に起因するトラブルが非常に多かった。また、SNSによってそれらの問題が複雑化、不透明化している傾向がある 	<ul style="list-style-type: none"> 各行事への積極的な参加は見られる。学科間での協力や交流の機会、学年としての活動の機会があればさらに効果が上がると思われる。 学年集会の機会が作りにくい。せめて学期に2度の学年全体での集会をもつ機会が欲しい。 	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第2学年	基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識を向上させる。特に、時間を厳守する態度を育てる。	・遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める(1学期5回以内、年間15回以内を目標とする)。 ・服装・頭髪等を正すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動のなかで規則や規範の重要性を実感させる(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の1%以内を目指す)。	B	B	・怠惰による遅刻は大きく減少したが、数値目標という観点からは一層の取り組みが必要である。 ・服装・頭髪の指導は成果を上げている。一部生徒の化粧については、個別の指導を継続していく必要がある。特別指導を要する生徒は少なく、学校生活を大切にするという気持ちの高まりがある。	・生活習慣・生活指導面の課題の改善のために、個別の事由に即した個別の指導を継続していく。
	基礎学力の向上のため、課題提出の厳守と家庭学習の習慣化を図る。	教科担当と連携を密にとり、生徒のつまずきに早期に対応し、基礎学力の定着を図る。また、課題の提出を全生徒に厳格に守らせるように徹底する(期限厳守、提出率100%を目標とする)。	B		教科担当教員の生徒個人への理解は深まっており、学力補充の対象となる生徒の状況も改善が見られる。反面、課題の提出をやり遂げられない生徒もおり、一層の指導が必要である。	学年末考査に関わる指導のなかで、繰り返し丁寧に指導していく。
	社会性の獲得を目指す。	学校行事や学級活動、部活動など様々な機会を通して、自己を表現する力や他の生徒とのコミュニケーションをとる力を身に付けさせる。また、全生徒が自発的に気持ちのよい挨拶ができる集団を目指す。学校評価アンケートで80%以上の好回答を目指す。	A		修学旅行先でも挨拶の素晴らしさをお褒めいただいたように、様々な場面で他者とコミュニケーションを取ることができてきている。保護者アンケートの「高円高校生は社会のルールや学校のルールをきちんと守っている。」の項目で評価が高く、社会性や規範意識の醸成が図れているように思われる。	コミュニケーションの中身として、他者を思いやりながらも、適切に自己主張ができるように指導していく。
第3学年	礼儀・マナーの大切さを再確認し、基本的な生活習慣の更なる確立と実践を図るとともに、規範意識を一層向上させる。	遅刻者の減少に努める。(1学期5回以内、年間15回以内を目標とする。全体として前年比10%減少を目指す。) 服装・頭髪等を正すなど、最高学年としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動のなかで規則や規範の重要性を実感させる。(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の1%以内を目指す。)	B	B	遅刻者の目標に関しては年間20回以上が14名いた。昨年度も14名の報告をした。メンバーは若干入れ替わってはいるが、減少とはならなかった。服装・頭髪に関しても自覚を促す指導はなかなか展開できず2学期の後半から3学期に掛けて頭髪の傷みが現れてくる生徒も数人いた。特別指導は従来の目標は達成できた。	遅刻指導の意義も含めて見直しが必要。頭髪・服装に関しても全体で確認する場が必要。規範意識についても随所で呼びかけや実践に努める。
	社会性の獲得を目指す。	学校行事や学年集会、各種講演、学級活動、部活動など様々な機会に、様々な人と関わることによって、自己表現力・コミュニケーション力・社会性の獲得を目指す。	B		様々な活動を通じて自己表現力・コミュニケーション力・社会性が向上してきたと思われるが、未だに報告・連絡の重要性と実行ができていない等の課題もある。次のステージに向けての重要な内容だけに少し不安も抱える結果となった。	最終学年として次のステージを意識した自覚を持たせる集会など必要。
	生徒の目標とする進路を実現できるように必要な支援を行うとともに、生徒個々の自己管理能力を向上させる。	実力養成講座、各種ガイダンス、面接・小論文指導、学年集会、三者面談などを通して、自己の進路実現に向けた意識・意欲を高める指導を徹底する。	A		実力養成講座・各種ガイダンス・面接・小論文指導・学年集会・三者面談を通じて各自の進路に向けた意識・意欲を高める指導により生徒個々のスキル向上につながった。	時代の流れに必要な情報のキャッチと正確な情報提供の場が必要。(全体に)